

平成26年度病虫害発生予察予報第7号（10月）

平成26年10月3日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量
カンキツ	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ 果樹カメムシ類	やや少～平年並 やや多～多 少 並～ やや多 やや少
施設野菜類	ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類 アブラムシ類 うどんこ病	平年並 並～ やや多 やや多～多 多 多

I 気象予報（高松地方気象台10月2日発表）

＜予想される向こう1か月の天候＞10月4日から11月3日

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。

向こう1か月の降水量は多い確立60%です。日照時間は平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は平年並または低い確率ともに40%です。2週目は平年並または高い確率ともに40%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1ヶ月	四国地方	気温	30	30	40
		降水量	10	30	60
		日照時間	40	40	20

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1週目	四国地方	40	40	20
2週目		20	40	40
3～4週目		30	30	40

＜予報の対象期間＞

1ヶ月：10月4日（土）～11月3日（日）

1週目：10月4日（土）～10月10日（金）

2週目：10月11日（土）～10月17日（金）

3～4週目：10月18日（土）～10月31日（金）

II 病虫害発生予想

1 カンキツの病虫害

1) そうか病

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや少～平年並

根 拠

(1)巡回調査では温州みかんでは平年並、中晩柑類では県中央部、西部で多発ほ場が見られたが、全般的には少発生であった。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているが、現在の発生状況から、発生量はやや少～平年並で推移すると考えられる。

対 策

(1)降雨後の薬剤防除を徹底する。

2) 黒点病

予 想 発生時期：並／発生量：やや多～多

根 拠

(1)巡回調査では温州みかんでは多発生、中晩柑類では県中央部、中西部で多めの発生であったが、全般的には平年並の発生であった。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、発生が増加す

ると考えられる。

対 策

- (1) 枯れ枝、剪定枝を樹園地内に放置しない。
- (2) 累積降水量、250mm～300mmを目処に薬剤防除を行う。

3) かいよう病

予 想 発生時期：並／発生量：少

根 拠

- (1) 巡回調査では、温州みかん、中晩柑類とも少発生であった。
- (2) 向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているが、現在の発生状況から、少発生で推移すると考えられる。

対 策

- (1) ミカンハモグリガの食害や、風ずれによってできた傷口が多いと発生が多くなるので、ミカンハモグリガの防除を行う。

4) ミカンハダニ

予 想 発生時期：並／発生量：並～やや多

根 拠

- (1) 巡回調査では、温州みかんではやや多、中晩柑類では県中央部で多発ほ場も見られたが、全般的には平年並の発生であった。
- (2) 向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、密度の大幅な増加はないと考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発現を回避するため、同系統の薬剤の連用を避ける。

5) 果樹カメムシ類

予 想 発生時期：並／発生量：やや少

根 拠

- (1) 巡回調査では、樹園地内での被害は見られていない。フェロモントラップへの誘殺も県西部を除き、平年より少なめとなっている。

対 策

- (1) 果樹カメムシ類は成虫が樹園地に飛来し加害するため、薬剤防除は飛来確認時に行う。
- (2) 薬剤防除は残効期間が長い合成ピレスロイド剤、ネオニコチノイド剤を中心に行う。

2 野菜類全般

1) ハスモンヨトウ

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

- (1) フェロモントラップへの誘殺数は県下全域で少ないが、8～9月に実施したサトイモでの卵塊調査では増加傾向にある。
- (2) 向こう1か月の気象予報では気温が高めと予想されているため、密度が増加すると考えられるが、現在の野外密度が低いため、平年並の発生になると考えられる。

対 策

- (1)施設栽培では開口部にネット被覆を行い、成虫の侵入を防止する。
- (2)ジアミド剤の苗灌注による防除を行う場合、薬剤処理～定植までの期間を3日間程度確保する（薬剤が苗に吸収されていないと残効期間が短くなる）。

2) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生時期：平年並／発生量：並～やや多

根 拠

- (1)ナスの巡回調査では県東部で平年より少なめ、県中央部では全ての調査ほ場で発生が見られており、密度の高いほ場も見られている。
- (2)向こう1か月の気象予報では気温が高めと予想されているため、密度が増加すると考えられる。

対 策

- (1)防除効果が高い薬剤が少ないので、施設栽培では開口部のネット被覆（1mm目以下）を行うとともに、天敵昆虫の利用など、他の防除方法も組み入れる。
- (2)薬剤防除を行う場合、発生初期の防除を心がける。

3) コナジラミ類

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや多～多

根 拠

- (1)ナスの巡回調査では県東部、中央部とも広範囲に発生が見られており、県東部ではオンシツコナジラミ、中央部ではタバココナジラミが多発生となっている。
- (2)向こう1か月の気象予報では気温が高めと予想されているため、密度が増加すると考えられる。

対 策

- (1)防除効果が高い薬剤が少ないので、施設栽培では開口部にネット被覆（0.4mm目以下が望ましい）を行うとともに、天敵昆虫の利用など、他の防除方法も組み入れる。
- (2)薬剤防除を行う場合、発生初期に生長点付近を中心に防除を行う（成虫は新葉の葉裏に産卵する）。

4) アブラムシ類

予 想 発生時期：平年並／発生量：多

根 拠

- (1)ナスでは県東部、中央部とも多発生となっている他、ピーマン類では本虫が媒介するCMVによる被害も確認されている。
- (2)向こう1か月の気象予報では気温が高めと予想されているため、密度が増加すると考えられる。

対 策

- (1)施設栽培では開口部にネット被覆（1mm目以下）を行い、成虫の侵入を防止する。
- (2)主な発生種であるワタアブラムシは下葉、モモアカアブラムシは生長点付近から発生するので注意する。薬剤防除を行う場合、ワタアブラムシはネオニコチノイド剤の感受性低下が懸念されるので注意する。

5) うどんこ病

予 想 発生時期：平年並／発生量：多

根 拠

- (1)ナスでは県東部、中央部とも多発生となっている。

対 策

- (1) 蔓延すると防除が困難となるので、発生初期の防除を心がける。また、耐性菌の発生を防ぐため、同系統の薬剤の連用を避ける。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ（こうち農業ネット）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ① 病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ② 病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③ 病害虫発生予察技術資料
- ④ 新しく問題となっている病害虫 etc.

こうち農業ネットサービス※

- ・ 携帯電話を使った病害虫関連情報（どなたでも利用可能です）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/info>（Iモード）

トップメニュー→地域情報→タウンガイド・行政→高知県庁メニュー→農業情報（ezweb）

四国メニュー→タウン情報・行政→高知県庁メニュー→農業情報：（ヤフー）

- ① 病害虫発生予察情報（概要）

※ 閲覧は無料ですが通信料は別途必要となります